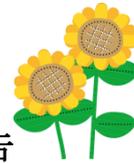




平成28年度 助産師職能集会報告



初夏の候、皆様にはますますご健勝の事と申し上げます。先日、6月25日には、新委員長藤谷圭子氏を迎え盛大に助産師職能集会を終えることができました。皆様方のご協力有難うございました。



職能委員の大田まゆみ氏より平成24年度から始まった新人・中堅助産師研修の振り返り、研修開催に至った経緯から現在までの活動の報告がありました。新人助産師は施設内でも数名のため現任教育にとどまる施設が大半を占めています。そのため、助産師実践能力向上推進を目標に「助産師キャリアパス・クリニカルラダー」をもとに、新人からベテランまで計画的・段階的に取り組むことが必要であると考え研修に取り組んできました。県・支部職能委員の意見として、新人の成長の状況がみえました。後輩を育てているという意識が持てるという声が聞かれました。

シンポジウムでは「助産師が行う退院後の母子健康診査とケア～二週間健診の試み」と題し、4名のシンポジスト、山口大学医学部附属病院 助産師佐藤李衣子氏、至誠会梅田病院 分娩室主任 中田由紀氏、山口県総合医療センター助産院 Sun 主任石田京子氏、下関市立病院 副主任永瀬志津氏を迎え活発な意見交換を行うことが出来ました。

- ・産後2週間健診を行って、退院時より1ヶ月健診時の母乳率の上昇がみられた。
- ・来院して良かったとの声が聞かれた。
- ・保健師、心理士がいるので、なんとなく気になる褥婦に対し相談を行っている。
- ・おっぱいマッサージをしながら不安を見抜く。
- ・児の栄養方法、直接授乳の練習、育児不安などについて相談。
- ・行政との連携において、早く訪問して欲しい時は情報を早く伝える。

など各施設のいろいろな意見を聞き有意義なシンポジウムとなりました。

